

木製引き戸の戸車交換方法

引き戸の開け閉めをスムーズにする

- 間仕切りの引き戸など、開け閉めが重くなったりスムーズに動かなくなったりしたとき、引き戸の下についている戸車を点検してください。
- 引き戸をはずして、戸車を指で回してみ、軽く回れば正常。ゴミが詰まっているようなら取り除きます。
- 戸車の回転がスムーズでないとき、潤滑剤などに、付属のノズルをつけてスプレーすれば直る場合もあります。
- サビがひどかったり、すり減って軽く回らなくなっているようなら、戸車を取り替えます。



戸車の種類と取り替え

戸車には、甲丸レールを走る一般的な丸型、敷居の上を走る平型、角レールを走り、脱線しないようにレールの両側にガイドがある、寒冷地に多い角型、そしてVレールを走るV型があります。V型は、走行性にすぐれていて、安定感がある最近のもので、レールが床に掘り込んであり、段差がないので、お年寄りや身体障害者にもやさしいバリアフリーの一つとして、よく使われています。

戸車を選ぶときは、種類を確認し、古い戸車の車輪部分の直径をはかり、それと同じサイズを選びます。

戸車には色々な材質があります。昔から使われているには、鋳物(鉄)製戸車ですが、サビやすいのが欠点。湿気が多い場所ならばステンレス製を選ぶと、サビにくく長持ちします。

音が静かなほうがよい場所ならLPプラス車を使うとよいでしょう。

また、「ベアリング入り」と「ベアリング無し」との違いは、主に耐荷重の違いにあります。「ベアリング無し」の場合は重い戸に長年使用している内に軸と車輪との接点が摩擦し偏芯していき、次第に動きが重くなっていきます。そのため、ベアリング入りに比べて重い戸への使用は避けた方がよいということになります。

さて戸車の取り替えですが、一枚の引き戸には二つの戸車がついており、取り替えるときは、二つ同時に取り替えるようにします。

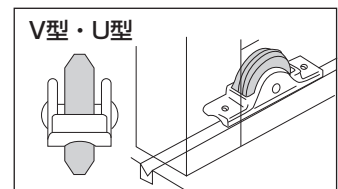
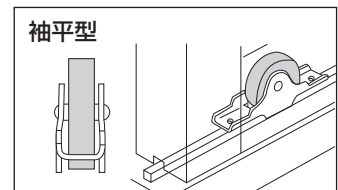
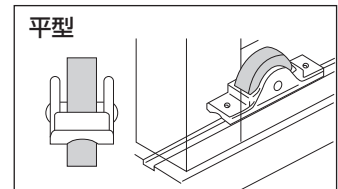
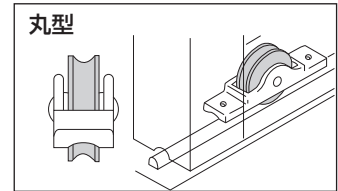
①まず古い戸車をはずします。ネジ止めされているものはドライバーで、クギ止めは、ドライバーの先やクギヌキでこし上げてはずします。

②はずした跡のネジ穴やクギ穴は、ようじなどで埋めておくと、しっかり取り付けられます。

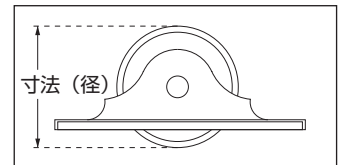
③新しい戸車は、引き戸の取り付け穴にきちんとおさまっていればよいので、クギ止め、ネジ止めどちらでもかまいません。

もし穴の部分の木が欠けたり、腐ったりして戸車が埋まりすぎたり、傾いたりしたときは、厚紙や木片をはさんみ込んで高さを調整してから少し長めのクギやネジで止めます。なお、クギ打ちするときは、金ツチで打ち込み、最後はクギ締めを当てて打ちます。クギ締めは狭いところ、溝や穴の中などにクギを打つとき、金ツチの補助として使う道具です。クギ締めのかわりに、少し長めのクギの頭を打ち込むクギの頭に当てて打つのも方法です。

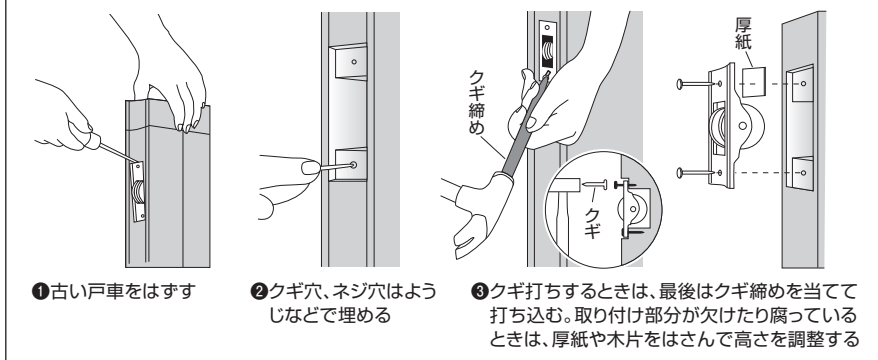
戸車の種類



戸車のサイズ



戸車の取り替え



戸車の施工に関する注意事項

- 戸車をレールに対して、建具・門扉に真っすぐに取り付けてください。
- 1枚の建具・門扉には、戸車を両端に1個ずつ計2個で取り付けてください。
- 2本引きレールの門扉の場合、外側面と内側面で門扉の荷重が大きく差が出る場合がございます。
戸車の耐久性に影響が出ますので、外側面と内側面の荷重が均等になるようご注意くださいと思います。
- マンション等の大きい門扉には、自動開閉仕様をご利用いただいている場合がございます。
自動開閉仕様では、門扉がレールに対して真っすぐ進まず、車輪がレールと常に接触しながら稼働している場合がございます。そのため車輪が激しく摩耗し、車輪交換の頻度が多くなります。
戸車を快適にご使用いただくために、門扉がレールを真っすぐ走るように振れ止め等を入れることをお勧めいたします。〈推奨：ガイド付重量戸車(P046参照)〉
- アルミレールをご使用の場合、樹脂製の車輪をご使用ください。
レールの材質より車輪が硬い材質だとレール本体が激しく摩耗します。
- 樹脂製の戸車を交換する際、レールが大きく傷んでいる(ガタガタの状態)と樹脂の摩耗が早くなります。
レールのメンテナンスも定期的におこなってください。
- 樹脂製の戸車はご使用環境等により、車輪が劣化して割れる場合がございます。
車輪が割れてはいけな場所には金属製の車輪をご使用ください。
- 戸車の動きが悪い場合は、シリコンスプレーをご使用ください。
油系のスプレーを使用されますと、ゴミなどが付着しやすくなり動きが悪くなる原因となります。
- ベアリング入り戸車をご使用いただく場合、最後まで手を添えて扉の開閉をしてください。
ベアリング入り戸車は引き力が軽いいため、扉を勢いよく閉められますと柱にぶつかった衝撃で扉が跳ね上がってしまい、落下した衝撃でベアリングや戸車の枠の変形や破損の原因となります。
扉が柱についた状態の上框のすき間にスペーサーなどを入れていただき、扉の跳ね上がりを少なくするような加工をお願いいたします。
- 台車に戸車を取り付けられる場合、戸車に対して均等に荷重がかかるようご利用ください。
荷物の載せ降ろし時、台車に衝撃が加わる場合には、ゴムマットなどで衝撃を緩和するなどの対策をおこなってください。